

多摩美術大学の理念

理 念

「自由と意力」

目 的

広く造形芸術全般について高度な学理技能を教授研究し、その深奥をきわめて文化の進展に寄与することを目的とします。また国際社会に対応する幅広い教養を身につけた人格の形成を図り、現代社会に貢献する優れた芸術家、デザイナー並びに教育者研究者等を育成することを目的とします。

運営方針

人類の美的資産の継承と未来を拓く新しい美を創造します。
現実社会を突き動かすことができる豊かな表現力を育成します。
国際的な芸術家やデザイナーが集まる創造的な環境を構築します。
専門分野の深化を図る専門実技教育の一層の充実と、総合化を図る共通教育組織と大学院組織の充実を目指します。

多摩美術大学の沿革

1935年	多摩帝国美術学校を東京都世田谷区上野毛に創設する。校長・杉浦非水、主任・中村岳陵（日本画）、牧野虎雄（西洋画）、吉田三郎（彫刻）、杉浦非水（図案）、学生 67 名。今井兼次教授設計の校舎完成。
1936年	図案科会機関誌『デゼグノ』創刊。女子部を設置する。北玲吉名誉校長、衆議院議員初当選。杉浦非水図案生活 30 周年記念連合展。
1937年	財団法人認可、徴兵猶予認可。どろ糸・くらぶ結成（多摩帝美在学生の会）。造形図案家集団結成。多摩帝国美術学校図案科会及本年度卒業制作作品展。
1938年	校舎三棟台風被害にあう。研究室 6 科第 2 回展。
1939年	出征学生に慰問袋発送。『多摩美術』創刊。『デゼグノ』（第 10 号）終刊。
1940年	里見宗次、フランスから帰国し、図案科の教授に就任。
1941年	『多摩美術』第 2 号刊行。多摩美報国団結成。日大芸術科と野球試合、応援皆無のため惜敗。
1942年	野外授業を軽井沢で実施。『多摩美術』第 3 号刊行。
1943年	『多摩美術』第 4 号刊行。
1944年	校舎が海軍技術研究所に接収され休校となる。『多摩美術』学徒出陣記念特集号刊行。全教員、全学生の作品写真を掲載。
1945年	三木清教授検挙（9 月獄死）。第二次世界大戦の空襲により校舎の大半（図案棟を除く）を焼失する。在京関係者により再建を協議。
1946年	溝ノ口工場（元軍需工場）を借り入れ学生募集を行う。入学試験を実施。開校、授業を再開する。
1947年	専門学校認可、多摩造形芸術専門学校（美術部・建築部・工芸部）となる。理事長・杉浦非水、校長・井上忻治。
1948年	戦後第 1 回の作品展開催。中学校・高等女学校教員無試験検定出願資格認可校となる。
1949年	『多摩美術』復刊第 1 号刊行。モダンアート夏期講座開催。
1950年	多摩美術短期大学（絵画科・彫刻科・造形図案科）を設置。学長・井上忻治。戦災焼失の上野毛校舎一棟を復旧、全面授業再開。
1951年	「財団法人多摩美術短期大学」を「学校法人多摩美術短期大学」に組織変更。戦災焼失の上野毛校舎一棟を復旧。
1952年	戦災焼失校舎復旧新築（佐藤次夫建設指揮）による本館完成。
1953年	多摩美術大学（絵画科・彫刻科・図案科）設置。理事長・杉浦非水、初代学長・井上忻治、美術学部長・逸見梅栄、初年度入学者 135 名。

・多摩美術大学の沿革

1954年	多摩芸術学園を併設する（映画科・演劇科）。逸見梅栄が学園長に就任。教育職員免許状授与所要資格認可。『美術大学新聞』（学生新聞部）創刊。
1955年	杉浦非水理事長、第11回日本芸術院賞恩賜賞を受賞。
1956年	上野毛校地 5,267坪購入。多摩芸術学園に、舞台美術、脚本、演出専攻を増設。
1957年	多摩美術大学美術学部第1回卒業式挙行、卒業生 133名。多摩芸術学園に、写真科を新設。
1958年	4年次生の奈良京都古美術研修旅行始まる。講堂が完成。多摩芸術学園溝ノ口校地（1766.5坪）および校舎を購入。ポール・ランド来学、名誉教授として迎える。
1960年	上野毛現本館完成。八王子校地の購入が始まる。
1961年	村田晴彦が理事長に就任。夏期講習会開催、以後、恒例行事となる（1988年まで）。
1962年	上野毛現1号館完成。溝ノ口学生寮完成。奥村土牛教授、中村岳陵元教授、文化勲章受章。
1963年	図案科をデザイン科と改称。
1964年	大学院美術研究科（修士課程）設置。附属図書館（上野毛）完成。八王子合掌造移築完成。
1965年	奈良古美術セミナーハウス（飛鳥寮）完成。杉浦非水名誉理事長没、大学葬。八王子運動場完成。
1966年	多摩芸術学園、後藤狷士学園長就任。上野毛現2号館完成。富士山麓セミナーハウス（純林苑）完成。八王子民俗資料館完成。
1967年	井上忻治学長、理事長兼任。多摩芸術学園、松葉良学園長就任。山名文夫元教授、デザイン教育の功績により瑞宝章を受章。
1968年	石田英一郎が学長に就任、総合美術大学構想を発表。多摩芸術学園新校舎完成。石田英一郎学長没。福沢一郎教授、学長事務取扱に就任。
1969年	芸術学科、建築科の設置が認可される。学園紛争により全学封鎖。全学教授会発足。八王子校地に学生寮、本館完成。福沢一郎教授、学長事務取扱を辞任。末松正樹教授、学長代行に就任。末松正樹学長代行辞任。村田晴彦事務局長、学長事務取扱兼任。
1970年	真下信一が学長に就任。「紛争の経過ならびにその後の学内問題について」発行。円鍔勝三教授、芸術院会員となる。
1971年	美術学部の八王子校舎移転開始。建築科開講。
1972年	八王子校地に学生会館、体育館が完成、以降実習校舎 11棟・図書館・美術参考資料館などが完成する。日光東照宮建造物装飾文様採集調査を実施。
1973年	多摩芸術学園、デザイン科を新設。加山又造教授、日本芸術大賞受賞。
1974年	美術学部の八王子校舎移転完了。村田晴彦理事長口述筆記『多摩美術大学沿革史』刊行。
1975年	村田晴彦が理事長を辞任、会長に就任。内藤頼博が理事長・学長代行に就任。村田晴彦会長・元理事長

・多摩美術大学の沿革

	没。
1976年	井上忻治名誉学長没。多摩芸術学園、専修学校制度による専門課程に移行し、絵画科を増設、6学科体制となる。創立40周年記念式典。
1977年	山本丘人特別講師、文化勲章受章。
1978年	内藤頼博理事長、法曹界および美術教育における功績により勲一等受章。今井兼次教授、芸術院会員となる。
1979年	内藤頼博が学長に就任。多摩芸術学園25周年記念式典。
1980年	デュシャン 大ガラス 東京ヴァージョン公開。
1981年	芸術学科開講。1号館完成（現絵画棟）。アートセンター・カレッジ・オブ・デザイン（米国）との交流始まる。
1982年	附属美術参考資料館が博物館相当施設の指定を受ける。学芸員資格認定指定校となる。シルバコーン大学（タイ）と国際交流協定を締結。
1983年	『多摩美術大学研究紀要』創刊。
1984年	芸術学科プロジェクト・第1回「TAMAVIVANT」展開催。
1985年	真下信一元学長没。八王子2号館完成（現芸術学科棟）。
1986年	李朝生活画展開催。附属図書館に「瀧口修造文庫」寄贈される。創立50周年記念式典。創立50周年記念事業『多摩美術大学50年史』刊行。
1987年	後藤狷士が学長に就任。創立50周年記念事業「もの派とポストもの派の展開」展、「TAMABIVENTS」開催。
1989年	社会人教育のための美術学部二部（絵画学科・デザイン学科・芸術学科）を上野毛校舎に設置。初年度入学者160名。上野毛3号館完成。
1990年	「ルーチョ・フォンターナ」展、「多摩美術大学版画教室の20年展」。大学説明会開催（以降毎年開催。'98年より進学相談会に改称）。
1991年	藤谷宣人が理事長に就任。中央工芸美術学院（北京）と国際交流協定。福沢一郎名誉教授、文化勲章受章。
1992年	美術学部絵画学科版画専攻開設。アルスター大学美術科（アイルランド）との版画作品交換展。『多摩美術大学広報 たまびNEWS』創刊。多摩芸術学園閉校。
1993年	美術学部二部第1回卒業式挙行、卒業生125名。
1994年	八王子校地を拡張し、建設整備を再開。美術参考資料館を附属美術館と改称。『多摩美術大学教員プロフィール'94』刊行。松尾敏男教授、日本芸術院会員となる。
1995年	シンボルマーク制定。校友会設立。大学院を昼夜開講制とする。創立60周年記念事業 広告デザインの

・多摩美術大学の沿革

	誕生から現代まで 展、「第1回東京国際ミニプリント・トリエンナーレ展」開催。
1996年	弘益大学校（ソウル）、東亜大学校（釜山）と国際交流協定。「1953年ライトアップ」展開催。
1997年	アジアの美術教員展。絵画棟、彫刻棟の一部、学生クラブ棟完成。加山又造客員教授、文化功労者。
1998年	全学的情報インフラが完成。情報デザイン学科設置。改組転換により、工芸学科・生産デザイン学科・環境デザイン学科設置。同じくグラフィックデザイン学科、絵画学科、彫刻学科へ改称。芸術学専攻修士課程設置。デザイン棟、彫刻棟、工芸棟が完成する。美術学部オープンキャンパス実施（以降毎年開催）。「第2回東京国際ミニプリント・トリエンナーレ展」開催。
1999年	辻惟雄が学長に就任。テキスタイル棟、T A Uホール、グリーンホール完成。造形表現学部（造形学科・デザイン学科・映像演劇学科）を上野毛キャンパスに設置。美術学部二部の募集を停止する。
2000年	美術学部情報デザイン学科と芸術学科でセンター試験利用入学試験実施。多摩美術大学美術館を多摩センターにオープン。生涯学習プログラムがはじまる。メディアセンター完成。八王子校舎前期工事竣工式典。内藤頼博名誉理事長没。松尾敏男名誉教授文化功労者。ヘルシンキ芸術大学（フィンランド）と国際交流協定。
2001年	大学院美術研究科博士後期課程美術専攻設置。美術学部、造形表現学部で3年次編入学試験実施。メディアセンター開館。「20世紀ポスターデザイン展」開催。清華大学美術学院（北京）と国際交流協定。
2002年	大学院美術研究科博士前期課程工芸専攻設置 生涯学習センター設置。「日韓中教授作品交流展」開催。「第3回東京国際ミニプリント・トリエンナーレ展」開催。レクチャー・ホール、新本部棟の建設着工。
2003年	高橋史郎が学長に就任。
2004年	レクチャーホール、本部棟完成。 八王子キャンパス後期工事竣工披露記念式典。

2004年12月現在

キャンパス概要



(上野毛キャンパス)

東京都世田谷区上野毛 3-15-34

校地面積：16,118.66 m²

校舎面積：16,963.16 m²

(2004年12月現在)

1935年、前身の多摩帝国美術学校設立の地である上野毛キャンパスは、都心部から至近であるとともに、首都圏西部に連なる緑豊かな住宅地に接した教育に好適な地にある。

現在は造形表現学部、大学院（夜間主コース）、法人本部が設置されている。



(八王子キャンパス)

東京都八王子市鎌水 2-1723

校地面積：151,561.70 m²

校舎面積：72,571.69 m²

(2004年12月現在)

1960年から美術学部の移転が始まった八王子キャンパスは、多摩ニュータウン開発計画地

域東西 12 k m の最西部に位置している。

1995 年に着工した八王子キャンパス計画により、教育・研究のソフトとハードの融合をテーマに、美術学生のための創作研究の環境づくりに取り組んでいる。又、多摩丘陵の緑豊かな特色を生かし、雨水利用、太陽光発電など環境配慮にも取り組んでいる。現在は、美術学部、大学院が設置されている。

その他、附属美術館（多摩市落合）、富士山麓セミナーハウス（山梨県南都留郡）、奈良古美術セミナーハウス（奈良県奈良市）などで構成されている。

教育組織

		収容定員	現員		
大学院美術研究科		235	248		
博士後期課程	美術専攻	21	15		
博士前期課程	絵画専攻	120	124		
	彫刻専攻	24	24		
	工芸専攻	20	21		
	デザイン専攻	36	53		
	芸術学専攻	14	11		
美術学部		3,062	3,487	共通教育	研究科 共通教育
絵画学科	日本画専攻	124	152		
	油画専攻	506	552		
	版画専攻	120	144		
彫刻学科		120	130		
工芸学科		240	262		
グラフィックデザイン学科		662	763		
生産デザイン学科	プロダクトデザイン専攻	120	133		
	テキスタイルデザイン専攻	160	180		
環境デザイン学科		300	366		
情報デザイン学科		480	527		
芸術学科		230	278		
造形表現学部		800	975	共通教育	
造形学科		160	192		
デザイン学科		400	483		
映像演劇学科		240	300		

収容定員、現員は 2003 年度 5 月現在

教職員の配置状況

	美術学部	造形表現学部
教 授	86	20
助教授	19	11
講 師	7	2
助 手	33	9
非常勤教員	236	67
総務系職員	11	0
経理系職員	7	0
教務系職員(事務)	11	5
図書館職員	8	4
その他職員1	18	0
教務系職員(副手・技術職員)	42	14
厚生補導系職員	12	2
技術技能系職員	2	0
その他職員2	9	3

2003年5月現在

職員の振分は人件費処理によるため、経理、総務、その他職員1、

技術技能系職員は全て美術学部へ片寄せしてある。

その他職員1は、総務、経理、教務、図書館以外の事務職員

その他職員2は、用務職員、セミナーハウス管理人

技術技能系職員は、ネットワーク管理者、電気技師、運転手など